

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

HRAF/文化項目分類コードの概覧表示

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-11-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒川, 雅人, 橋原, 秀晴 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/3634

HRAF/文化項目分類コードの概覧表示

黒川 雅人*・橋原 秀晴*

要旨

民族学の分野で用いられる HRAF/文化項目分類コードについて、その内容をパーソナルコンピュータ上で自由に概覧できるシステムを作成した。このシステムでは、HRAF/文化項目分類コードの持つネットワーク状の構造に着目し、それをハイパーテキストの形で実現していることが特徴といえる。

1 はじめに

HRAF/文化項目分類コード¹⁾は、民族学の分野で用いられ、通文化的な観点から文化の諸要素を分類するコード体系である。文化項目分類コード(以下 OCM コード)は、文化やその背景となる情報を大分類コード及び小分類コードを設けて階層的に分類しており、関連のある分類コード間にはクロスリファレンスが付加されて、総合的にはネットワーク状の体系をなしている。また各コードには、その分類に含まれる情報の範囲を示す説明文が記載されている。

本稿では、上記のコード体系内の情報をパーソナルコンピュータ上で簡単に概観できるシステムを開発したので、それを報告する。本システムでは、コード体系のネットワーク上を自由に移動して各コードの持つ内容を表示できる。また、マルチウィンドウ機能を用いて同時に複数個の分類コードの内容を表示することも可能である。操作の方法は、マウスを用いて該当する分類コードを指示することによって容易に行なえる。

2 HRAF/文化項目分類コードとその使用方法

OCMコードは、10から88までの2桁の値を持つ79個の大分類コード、及びそれらの下に1から9の1桁を付加した3桁の値を持つ637個の小分類コードを持つ。各コードの構成は、項目番号、タイトル、説明文、参照項目の4種類の情報よりなり、

* 日本アイ・ピー・エム(株) 東京基礎研究所

1) 本書資料編B「HRAF/文化項目分類(OCMコード)」,及び本書「標本資料検索コードとしてのHRAFコードの利用について」参照。

大分類の下に小分類という階層的な構造，及び関連のあるコード間を結ぶクロスリファレンスというリンク構造を有したネットワーク型の構造を持っている。

OCM コードは，いわば「OCM マニュアル」とも呼ぶべき、『文化項目分類』という一冊の文献になっており【マードック 他 1988】，研究者はそれを引いて自分の欲しいコード番号を得る。研究者が必要とする文化の情報をこの「マニュアル」を利用して手にいれる際の手順の例を以下に示す【福川 1986】。

1. 研究したいと思う文化の情報について，OCM マニュアルの索引でそれにあてはまる項目番号を探し出す。
2. 該当項目及びその隣接項目と関連項目の本文の内容を確認し，自分の要求に適合した項目番号を選択する。
3. 得られた項目番号をもとに HRAF ファイルの内容を読む。

以上のように使われる文化項目分類コードについて，ここでは主に2.の操作を支援するために OCM マニュアルをパーソナルコンピュータ上に実現し，種々の概視機能を持ったシステムを提案する。

3 OCMマニュアルの電子化

3.1 概念と機能

OCM コードの利用方法は，2節で示したように簡単な作業であるが，実際に主題に最も適合した分類項目コードを探し出すのはそう容易ではないことが予想される。なぜなら，文化を表現する要素は一元的に決定しうるものではなく，研究者の意図するものを表現するためには複数の多元的な情報が集まりあってはじめて表現できるものと考えられるからである。そのためには，単に索引を用いて項目番号を決定するような操作以上に，前節の手順2.に示した本文の内容の確認及びその結果としての項目番号の選択の操作のところに重点がおかれ，情報の取捨選択，分解と統合等の判断を試行錯誤的なプロセスを通して行なうことになる。このような試行錯誤的なプロセスを支援するために必要な機能として以下の3点を満足するようなシステムを考える。

1. 迅速かつランダムなデータアクセス機能

必要とする情報（ここでは分類項目の内容）が，必要なときに利用者の思考を

中断させることなく迅速かつ容易に表示されること。

2. 複数の情報の同時表示

複数の情報を同時に見てその比較，検討が可能なこと。

3. 個人情報の付加

研究者の持つ個人的な情報を表示内容やリンクに反映させること。

3.2 実現方式

3.1節に挙げた基本機能を持った OCM マニュアルの電子化システムを，パーソナルシステム IBM5550（日本語 DOS）上に作成した。本システムでは，ハイパーテキストの概念 [CONCLIN 1987] を応用し，マルチウィンドウ環境のもとでユーザーの欲する項目の内容を瞬時に取り出して表示することができる。ここでハイパーテキストとは，テキスト型の情報をより小単位の独立したパケット（ノード）の集合として扱い，各パケット間の関連をリンクで繋げることによって表現するネットワーク状の体系を持ったシステムをいう。

ハイパーテキストの利点は，紙というメディアの本質的な拘束である情報の順次性を排し，必要と思われる情報に直接アクセスが可能な点にある。

本システムでは，OCM コードの各分類項目をノードとして考える。また OCM コードの体系が持つ階層構造や，クロスリファレンスによる参照関係をノード間を結ぶリンクとして扱う。

具体的には，各分類項目の内容を「OCM カード」と呼ぶカードの形式で表現する。またリンクを表現する情報としては，項目番号を用いている。以下では，表示方式と個人化という2つの観点から本システムの実際の機能を紹介する。

3.2.1 表示方式

カードの種類は，表わす内容の階層性を考慮して以下に示す3種類を用意した。

1. 目次カード

階層構造のルートノードであり，79個の大分類コードとそのタイトルを列記したものである（写真1）。

2. 大分類カード

79個の大分類項目に対し，その内容及び下にある小分類コードを列記したものである（写真2）。

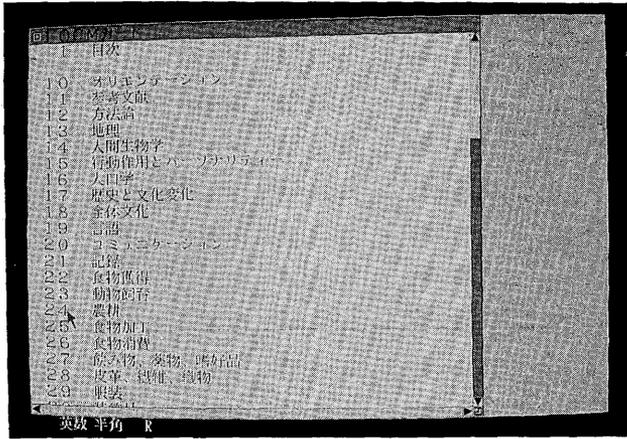


写真1 目次カード

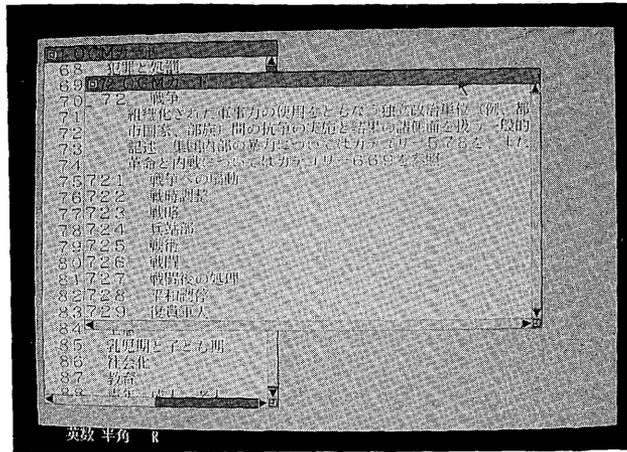


写真2 大分類カード

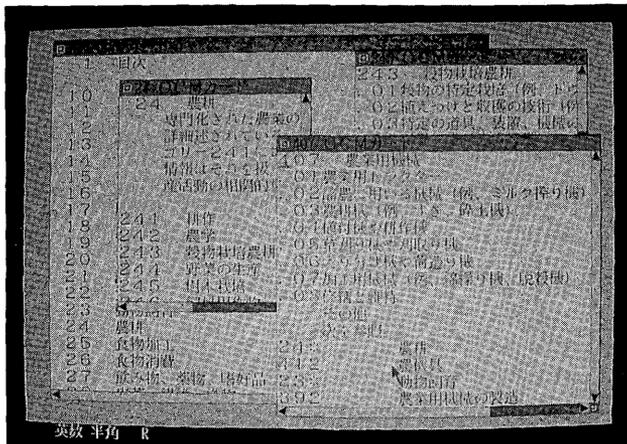


写真3 小分類カード

3. 小分類カード

637個の小分類項目に対し、その内容及び参照項目を列記したものである（写真3）。

実際のシステムでは、「OCM カード」は1つの独立したウィンドウの形で表示される。ユーザーは、各「OCM カード」に示されている説明文の内容を読み、関連する項目、もしくは構造的に上位（下位）の項目の内容を表示したい場合、ウィンドウ上の該当する項目番号の部分をマウスで指示する。すると指示された項目番号の「OCM カード」の情報が、画面上に新しくウィンドウの形式で表示される。現在のシステムでは、最大16枚までの同時表示が可能であり、各ウィンドウの移動、スクロール、サイズ設定等は自由にできるようにしてある。なお、ここで用いられたウィンドウシステムは本書「民族学研究用画像検索システムの視覚化ユーザーインターフェース」のウィンドウシステムを基盤にしている。

3.2.2 個人化

本システムでは、OCM で規定された汎用的なリンクの体系の他に、ユーザーによる独自の情報を付加できる機能を提供している。これは、利用する研究者の持つ情報を表示内容やリンクに反映させることによって、より使いやすいツールとなると考えたからである。OCM カードの内容は、スクリーン上でテキスト編集が可能であり、メモを取る感覚でカードに書き込みをいれることができる。また、表示内容の変更に加えて、リンク情報の付加も可能である。これは、項目番号をカード上に記載するだけでよい。以後その項目番号上をマウスで指示することによって、該当する分類項目のカードを呼び出すことができる。

4 おわりに

本稿では、民族学で用いられる OCM コード体系の表示システムについて述べた。このシステムは、研究時の OCM コード利用の支援及び OCM コードの学習を支援することを意図して作られたものである。本システムの特徴は、ネットワーク状のコード体系をハイパーテキストの形で実現し、OCM コードという情報の体系の中を簡単なマウス操作だけで自由に航行できる点にあるといえる。

また、汎用的なコード体系の表示のみではなく、使用する各個人の情報を加える機

能を提供することによって、利用者にとって融通性の高いツールとなっている。

本システムでは、表示機能のみを実現したが、今後の展開としては、

1. 検索機能の強化 (OCM の索引機能の付加),
2. HRAF ファイルとの連動,

等、より高度な OCM コードの活用方法が考えられる。

文 献

CONCLIN, J.

1987 Hypertext: An Introduction and Survey. *IEEE Computer* 19: 17-31.

福川圭子

1986 「HRAF その1——分類システムとファイルの仕方」『月刊みんぱく』国立民族学博物館 10(11): 18-19。

マードック, G.P.・C.S. フォード・A.E. ハドソン・R. ケネディ・L.W. シモンズ・J.W.M. ホワイティング

1988 『文化項目分類』国立民族学博物館(訳), 国立民族学博物館。